

# NAGOYA CITY UNIVERSITY

2026



# 研究科長ご挨拶

大学院人間文化研究科長  
・人文社会学部長

**久保田 健市**

くぼた けんいち



## いま一度「精神的豊かさ」を求めて

いまでも昔も、人間の生活には、物質的豊かさや科学技術の発展だけでは不十分で、それとともに、あるいは、それ以上に、精神的な幸福を感じる事が重要です。人文科学・社会科学の諸学問を追究する意味は、まさにこの点にあると思います。

いま、さまざまな機会に耳にする「17の持続可能な開発目標」(SDGs)を見ても、貧困・教育・さまざまな不平等、平和と公正など、人文科学・社会科学の貢献が求められる課題がたくさんあります。いまこの文章をお読みのみなさんも、これらの問題に強い関心を持ち、社会の不正や機能不全に激しく憤り、その解決に向けた強い熱意をお持ちなのではないでしょうか。

人間文化研究科における「グローバル文化」、「日本文化」、「都市政策」、「ジェンダー・福祉・社会学」、「社会と教育」、「基礎心理」、「臨床心理」の7コースの学修は、個々の専門性を究めるのと同時に、幅広い学際的な学修も可能としています。昼夜開講制や長期履修制度も採用し、仕事をもつ社会人大学院生でも、自分のペースで無理なく学修する仕組みも備えています。豊かな見識と経験を持った教員たちと、多様な関心や社会的背景を持ちつつも、熱い想いを共有する学生たち—わたしたち人間文化研究科の輪の中に、みなさんも加わってみませんか。

筑波大学第二学群人間学類卒業

博士(心理学)

専門: 社会心理学、集団心理学

論文: Relations between temperament and metacognition and frames of reference in behaviors in public situations in early and middle Adolescence: An analysis of age states. *Frontiers in Education*, 06 February, 2018年(共著)

持続可能な開発のための教育に対する心理学・教育学の貢献と可能性 名古屋市立大学人間文化研究所年報, 11, 35-43, 2016年

CMCにおける立場の平等化と「隠れたプロフィール」問題 人間文化研究, 12, 1-13, 2009年

社会的カテゴリー化により導入された少数派、多数派および第三者の集団間差別行動と認知 心理学研究, 68, 120-128, 1997年

## 人間文化研究所長からのご挨拶

毛利 雅子 もうり まさこ

2005年4月の設立から早20余年、人間文化研究所は、人文社会学部・人間文化研究所附属の研究所として、様々な活動を実施してきました。

21世紀に入ってから四半世紀経った今日でも、私たちの生活には混沌とした思いを巡らせる事が起きています。その全てを解決することはおそらく不可能でしょう。しかし、完璧な回答を求めることだけが解決ではないと思います。その解決に至るまでのプロセスを楽しみ、検討しながら新たな視点を探り、何らかの展望を得る場所を提供するのが、人間文化研究所の役割ではないかと考えています。

例年、当研究所はマンデーサロンとして新しく着任された先生を中心に講演を行い、それぞれの専門についてお話し頂いておりますが、同時に「紀要 人間文化研究」や「人間文化研究所年報」を刊行するなど、幅広い活動を通して多くの方々に知見を提供する活動を継続しています。また毎年、所属教員による共同研究プロジェクトを実施することで、異なる分野の教員が参加する複層的知識の集約にも努めています。さらに、国際シンポジウムやサイエンスカフェの開催を通して、地域の方々との交流を広げ貢献してきております。

科学技術が発展し、世界における物理的距離が短縮されたと言われる現代においても、生きていくことは簡単ではなく、私たちは新たな課題と挑戦に向かい続けています。人間文化研究所は、その一助となる存在でありたいと考えています。

### 2025年度 共同研究プロジェクト

- 「大学教員による訪問型出前授業に対する高校のキャリア教育的ニーズの探索的検討」(代表: 天谷 祐子)
- 「名古屋市立高校の探究学習に関する研究 — インタビュー調査・参与観察の分析から —」(代表: 松村 智史)
- 「『持続可能な開発』理念の形成と普及プロセスに関する探索的研究」(代表: 馬渡 玲欧)

## 入 試

Pick  
Up!

臨床心理コースの募集人数が10名から20名に増えました

人間文化研究科では、7月下旬に臨床心理コース1回目、9月上旬に博士前期課程1回目（臨床心理コースは2回目）、1月下旬から2月上旬に博士前期課程2回目（臨床心理コースは3回目）及び博士後期課程の入試を実施予定です。

※定員に達した場合、臨床心理コース3回目入試は実施されません。

## 募集人員

博士前期課程 45名（うち臨床心理コース20名）※1回目、2回目（臨床心理コースは3回目まで）合わせて  
博士後期課程 5名

アドミッション  
ポリシー

今日の地球規模の課題および地域社会における諸課題は、技術的、物質的アプローチのみでは決して解決に至りません。価値観の多様性を前提としながら、人間の文化について深く掘り下げた研究が求められており、人間文化研究科の使命はまさにこうした研究を通じて、持続可能な社会の実現へ向けて貢献していくことにあります。

本研究科では人文社会諸科学の研究、特に、思想、歴史、文学、メディア、労働、地域づくり、人権、福祉、教育、心理などの分野諸課題について、専門的かつ複眼的に研究し、教員と共同で研究することができます。深い専門知識と幅広い教養を生かして、将来、研究者になりたい、あるいは地域社会に貢献したい、また国際社会で活躍したいという意欲を持つ人の入学を期待します。

博士前期課程  
博士後期課程

## 博士前期課程〈臨床心理コースのみ〉

※昼夜開講制及び長期履修制度は適用されません。

## ● 昼夜開講制

昼夜開講制を導入し、社会人を広く受け入れています。学生は夜間(18:00~21:10)と土曜日に開講される授業科目を履修することで、修了に必要な単位を取得することができます。

## ● 長期履修制度

仕事・家事・育児・介護などの事情を持つ学生は、標準年限を越えた年数で履修をすることができます。なお、納付する授業料は、標準修業年限の学生の納付額と同じです。

## ● 取得可能な免許（※第1種取得済みの方のみ）

- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・中学教諭専修免許状(社会、英語)
- ・高等学校教諭専修免許状(地理歴史、公民、英語)

## ● 受験科目 例年、小論文と面接です。

## ● なごや子ども応援委員会(名古屋市教育委員会)との連携

名古屋市公立学校において実習を行います。この実習を通して、名古屋市子ども応援委員会スクールカウンセラーの即戦力となることを目指します。

## ● 医学研究科、医学部附属病院、看護学部との連携

本学の有する医療系と連携し、医学部附属病院での実習を通して、医療分野に強い公認心理師・臨床心理士となることを目指します。

## ● 取得可能な資格

- ・公認心理師受験資格
- ・臨床心理士受験資格



<陪席実習の様子>

## 卒業後の進路

## 日本文化

大学教員 小野 純子さん

私は台湾史を専門としていますが、大学院では他分野の院生と切磋琢磨し、多くの議論を重ねることができました。指導教員だけではなく、専攻を越えて他分野の先生方にも支えられながら研究に取り組める環境がこの大学院の魅力です。そういった環境だったからこそ辛い時期や大変だった時期も乗り越えることができたと思います。



## 地域文化と共生(2022年度まで設置) 大学教員 道前 美佐緒さん

私は、自身が関わってきたプライダルビジネスに、学術的な検証を加えたく、大学院に入学しました。重厚な知識を持つ先生方とのディスカッションは、新たな視点と論理的な思考へと導く、刺激的な時間でした。史学、観光学、民俗学など、多様な授業が、私の視野を広げてくれました。卒業後、観光学科の大学教員となり、研究活動も続けています。



## 都市政策

自治体職員 林 正人さん

自治体職員として勤務するなかで生じた問題関心を、より掘り下げたい気持ちから大学院に入学しました。毎回の講義やフィールドワークでは、常に学問と現場の架橋を意識しながら取り組みました。きめ細かい丁寧なご指導を頂きながら、何とか修了することができました。都市政策コースでの学びをとおして、これまでの自分になかった視点や発想を身に付けられたと思っています。学びから得られた縁も大切にしながら、生涯現役をめざし、地域やまちづくりに関わっていければと思います。



## 社会と教育

大学教員 内田 将平さん

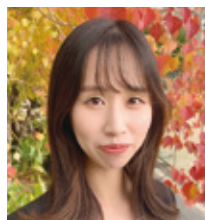
大学院ではドイツの幼児教育について研究を深めました。在学中は、様々な学問を探求する院生と時間を忘れて議論を交わすことも多々ありました。そのお陰で自らの研究を多角的に捉え直すこともできました。現在は、ドイツの大学院で博士論文を執筆しつつ、大学教員として保育者養成にも携わっています。



## 臨床心理

スクールカウンセラー 東城 加歩さん

スクールカウンセラーとして、多様な悩みに向き合う際に不可欠な、多角的・洞察的なもの見方を鍛えられたことが、大学院での大きな収穫です。幅広い領域での実習や、面接練習の経験は、現在お子さんや保護者の方に寄り添い、問題解決をお手伝いする際に大変役立っています。



## 「こころ」の発達(2024年度まで設置) 大学職員 吉田 拓哉さん

心理学は、我々が普段経験している感情や行動の仕組みを研究する学問です。大学院での心理学の研究を通して、日常の当たり前に関わらず、論理的に検討し、解答を導き出す力を身につけました。大学院で学んだことは、大学職員として日々の業務や組織が抱える問題への取り組みに大変役立っています。



# 開講コース

## グローバル文化

欧米文化がグローバル文化として世界の中で強い存在感を示しています。しかし、その実態は文明・帝国・男性中心・支配の文化です。本コースでは、それらを批判的に考察し、開かれた真のグローバル文化を探求します。夜間のみで専修免許や学位取得が可能です。

市川 哲	観光研究、文化人類学
梶浦 眞由美	英語教育学 第二言語習得論、リスニングの習得など
川本 徹	映画学、アメリカ文学 アメリカ文化と映画、アダプテーション研究
高坂 博史	国際関係論 ヨーロッパ国際関係史研究
杉浦 克哉	英語学、英語史、生成文法 歴史的統語論、言語変化
平田 雅己	アメリカ現代史、平和学 アメリカ外交史研究、1960年代ベトナム反戦運動史研究、地域視座の平和教育研究
毛利 雅子	異文化コミュニケーション論 異文化理解・司法通訳研究
山田 翔太	国際開発学、地域研究(南アジア) バングラデシュを調査地とした国際協力論、国際開発学(主に飲料水、住環境)
山本 明代	人の移動の社会史、多文化社会論 強制移住の比較史、難民の社会運動史
吉永 和加	西洋哲学史、フランス近現代哲学 他者論、責任論、言語論、哲学と倫理と宗教の交差に関する研究

## 日本文化

日本の文化のもつ普遍性と特殊性について、文学、歴史学、日本語学、宗教研究、思想史研究、文化資源研究、ポピュラー文化研究などの側面から学際的に研究します。

アンドレア・カスティリオーニ	日本宗教学・日本思想学 江戸時代の修験道(山岳信仰)に関わる歴史・宗教的実践・思想。日本宗教におけるマテリアリティ・動物性(animality)・他性(otherness)・身体(physicality)の概念・ビジュアル言説
石川 優	ポピュラー文化研究、マンガ研究、文学理論 現代日本における物語文化の研究、二次創作とボーイズラブ(BL)に関する研究
江口 啓子	日本文学 中世文学、絵と詞の表現機能、前近代のジェンダー表象
川戸 貴史	日本史学・社会経済史 中世・近世日本における貨幣経済およびアジア海域交流史に関する研究
佐藤 美弥	文化資源学・歴史学 地域の文化財の保存・活用に関する研究、日本近現代の社会・文化に関する歴史研究
椎名 渉子	日本語学・方言学・日本語教育学 日本語運用に関する談話論的・語用論的研究
山田 敦	日本植民地史、東アジア近代史 明治大正期の植民地農政、戦後日台関係

## 都市政策

都市では、コミュニティの形成や維持可能性、産業などについて様々な課題を抱えています。それらの課題の解決には、政治学、法学、行政学、社会学、経済学など、様々な学問分野の理解が必要となります。都市政策研究センターや経済学研究科と連携することで、基礎理論から実践的な研究まで、幅広く学び研究することができます。

伊藤 恭彦	政治学・規範理論研究 公共政策規範論、都市型社会における租税と再分配政策の研究
杉山 有沙	憲法学 主体的個人としての社会的弱者(障害者、生活困窮者等)の権利保障に関する比較憲法的研究
林 浩一郎	都市社会学・社会調査法 「都市再生」の社会学、リニア開発主義の研究
松村 智史	社会福祉学 子どもをめぐる社会保障・教育などの制度・政策に関する研究、子育て支援に関する研究
三浦 哲司	地方自治論・行政学 都市内分権の研究、コミュニティ政策の研究
渡部 朗子	民事法学 成年後見分野及び高齢者・障害者の権利擁護に関する法的研究、 不動産取引と法、環境紛争に関する研究

## ジェンダー・福祉・社会学

日常生活の中でおこっている具体的な問題を取り上げ、それらを近代から現代への歴史的な文脈や「ジェンダー」「福祉」の立場から、また「社会学」的な視点で分析研究に取り組んでみたいという志のある方を歓迎します。

安藤 究	家族社会学、ライフコース論 世代間関係、家族変動と経済(生命保険産業)
大石 真澄	メディア社会学 1950-80年代の日本におけるテレビCMの文化的機能
岡部 真智子	社会福祉学 地域における居住支援ネットワーク構築に関する研究、包括的居住支援施策に関する研究、 高齢者の福祉住環境に関する研究
菊地 夏野	ジェンダー・セクシュアリティ研究、社会学 現代日本社会におけるジェンダーとセクシュアリティの理論的探求
樋澤 吉彦	社会福祉学、ソーシャルワーク論 精神保健医療福祉分野におけるソーシャルワークの専門職性に関する研究
馬渡 玲欧	環境社会学、社会学史、社会理論 産業廃棄物処分地の原状回復に関する研究、「自然の生産」の社会理論研究、 テクノロジーや労働をめぐるフランクフルト学派の社会思想研究
宮下 さおり	労働社会学 中小企業で働く人々(経営者・雇用労働者)の労働とその社会的編成に関する研究
吉田 輝美	高齢者福祉 福祉施設の介護従事者の感情労働に関する研究、高齢者施設の虐待防止に関する研究、 介護外国人技能実習生(ミャンマー、スリランカ)の育成に関する研究
米川 和雄	スクールソーシャルワーク論、社会福祉学、精神保健福祉学、福祉心理学 スクールソーシャルワーカー活用事業・資質向上指標の研究、 スーパービジョンや生物・心理・社会的アセスメントアプローチの検討

## 基礎心理

心理学独自の計測手法・数量的指標化手法や実験計画を用いて、ヒトの心と行動の仕組み・はたらきを理解していくとともに、社会や現場の問題の解決に寄与し得る介入方法の開発に取り組めます。

久保田 健市	社会心理学 集団間関係に関する社会心理学的研究
布井 雅人	認知心理学 選好判断、対人場面における非言語情報の影響

## 社会と教育

現代社会の中で、人間はどう学び・育つか、乳幼児から大人までを見通しつつ、主に保育学・教育学の立場から科学的根拠に基づく研究を行います。

天谷 祐子	発達心理学・教育心理学 児童期・青年期における自己に関わる問題・キャリア教育
上田 敏文	保育学 保育者の専門性発達、園長のリーダーシップ研究など
古賀 弘之	音楽教育学・音楽療法 発達障害児と音楽教育に関する研究・音楽聴取とイメージに関する研究
曾我 幸代	教育学、ESD論 持続可能な社会形成と変容をもたらすESDおよびケアに関する研究
谷口 由希子	社会福祉学、児童福祉論 生活困難・社会的養護にある子どもと家族の支援に関する研究、子どもの権利に関する研究
前林 英貴	小児保健学 医療的ケア児とその家族の支援、小児救命教育、乳幼児の言語発達
山田 美香	教育史・比較教育学 アジアの教育史、現在のアジアの子育て学・教育学

## 臨床心理

教育現場や医療現場など、さまざまな領域で活躍できる臨床心理士および公認心理師を養成することを目指すとともに、「こころ」に関わる諸問題について、主に臨床心理学の視点から研究していきます。

小川 成	臨床心理学・精神医学 不安症および不安症に対する認知行動療法
桑島 隆二	臨床心理学 子どもの心理支援、不登校、発達障害、愛着障害
佐渡 忠洋	臨床心理学 イメージと心理療法、医療臨床、投映法、人間学・歴史学的研究
杉岡 正典	臨床心理学 思春期・青年期のカウンセリングやコミュニティ支援
富田 真紀子	臨床心理学、産業・組織心理学 ワークライフバランスに関する研究、キャリアカウンセリング・キャリア発達に関する研究
二宮 有輝	臨床心理学 精神分析的な心理療法、現代青年の臨床心理学的・社会文化的研究
古村 健	臨床心理学 認知行動療法、精神障害リハビリテーション、メタ認知トレーニング

## 大学院生の声

臨床心理  
コース博士前期課程  
2022年度入学

林 隆行さん

私は、精神科病院の心理士を目指しています。本研究科は、特に実践的な実習が充実しており、付属の病院実習と学校実習以外に、2つ以上の外部施設を自ら選択して実習に行くことができます。私は、単科精神科病院と自立訓練施設、さらに児童心理治療施設の3カ所に実習に行く予定です。また、大学附属の相談室でのカウンセリングも1年生後期から徐々に任せてもらえます。その際、ケース毎に違う教授からスーパービジョンを受けることが出来るため、幅広い視点の学びに繋がると感じています。このように、様々な経験を通して、自分自身のキャリアを具体的に描く助けになると感じたので、他大学から本学を志望しました。

修士論文では、第三世代の認知行動療法であるアクセプタンス&コミットメントセラピーのマインドフルネスと価値の明確化を用いた研究をしています。論文や進路など、行き詰まりを感じるがありますが、同じ研究科の同期や先輩とも距離が近く、いつでも相談できる雰囲気があるので、乗り越えられそうです。

## ● 1年次の時間割(後期)

	月	火	水	木	金	土
1限			学外実習 (大学病院実習)	学外実習(自立訓練施設)	コミュニティ心理学特論	
2限	認知心理学特論		学外実習 (大学病院実習)	学外実習(自立訓練施設)	投影法特論	
3限	臨床心理面接特論II			学外実習(自立訓練施設)		
4限	臨床心理特論II		臨床心理基礎実習 (合同カンファレンス)	学外実習(自立訓練施設)		
5限			臨床心理基礎実習 (合同カンファレンス)	学外実習(自立訓練施設)	臨床心理学研究演習II (ゼミ)	
6限						
7限						

社会と教育  
コース博士前期課程  
2021年度入学

森田 幸一郎さん

私は、愛知県内の公立小学校で教員をしながら、本研究科で「パフォーマンス評価に基づく小学校社会科の「地域学習」のカリキュラム開発」について研究しました。始めは仕事をしながら、大学院に通うことに不安を感じましたが、夜間と土曜に授業を受講できるため、休職することなく2年で修了に必要な単位を取得することができました。平日は、授業のためにテキストを読み進め、土日で授業の課題や自分の研究テーマを中心に取り組むことで、生活にメリハリがついたように思います。

授業では、私と同じ社会人の仲間が多く、多種多様な考え方を知る機会となり、大いに刺激となりました。研究で自分の専門性を高めることはもちろん、他の授業などで専門外のことの知識を得ることで、自分の世界が広がっていくのを感じました。学部時代とは違い、社会人が多く在籍する本学の大学院は、多職種の人と出会い、交流できる場であると思います。

## ● 1年次の時間割(後期)

	月	火	水	木	金	土
1限						現代地方自治研究A
2限						現代地方自治研究A
3限						
4限						
5限						
6限	教育学研究B		現代教育研究B			
7限			課題研究科目「社会と教育」	アメリカ政治外交研究B		

ジェンダー・福祉・  
社会学コース博士前期課程  
2022年度入学

戸次 こよみさん

私は人間文化研究科のジェンダー・福祉・社会学コースに所属して、高齢者の社会的孤立問題について自治体の政策を用いた研究をしています。

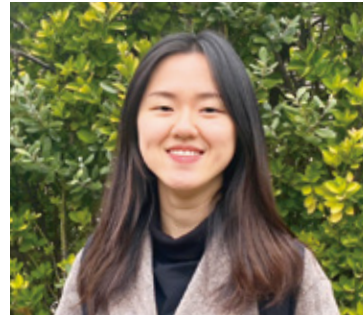
大学院の授業では、留学生や社会人などバックグラウンドの異なる仲間、それぞれのキャリアを経たからこそその考え方も聞けるので、学ぶことも多く、自らの知見を深められます。

また、コース内の大学院生が集まり、自分の研究を発表したり、他の人たちの研究を聞いて意見を述べ合う場も用意されているため、刺激を与え合い、高め合うことが出来ます。

さらに、研究に関するだけでなく、就職活動に関することや友人のことなど、親身になって話を聞いてくれる温かい先生が多いので、充実した日々を送ることが出来ています。

## ● 1年次の時間割(前期)

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限			環境社会学研究A	現代社会情報・ メディア研究A		
3限						
4限						
5限					公法学研究A	
6限	経営原理(単位互換)		課題研究科目 「ジェンダー・社会・福祉学」		NGO論研究B	
7限						

グローバル文化  
コース博士前期課程  
2023年度入学

林 鏡羽さん

私は、人間文化研究科のグローバル文化コースに所属し、元々中国南部の沿岸の船上で暮らしてきた「疍民(たんみん)」は陸に定住生活してから、自らの宗族(父系出自集団)を形成しようとする文化人類学的な研究を行っています。本研究科では多くの分野があつて、自分の専門と授業内容が一見関係がないかもしれませんが、実際には多様な角度ができて、思考力を鍛えて、ふとしたときに自分の研究に役立つことがあります。

授業では、受講生が異なる国から来た学生だけでなく、たくさん業界から来た社会人もいるため、専門外の間際と交流する機会がたくさんできるし、自分の視野がぐんと広がることもできます。また、ゼミでは、同じクラスメイトからの質問やコメントがあり、コミュニケーションの中で、研究の新しい方向性が見えることもあります。

研究以外にも、社会課題やボランティア活動などのイベントを通じて様々な経験でき、よい刺激となっています。

## ● 1年次の時間割(後期)

	月	火	水	木	金	土
1限						
2限			ライブコース研究A			
3限						
4限						
5限						
6限	西洋哲学研究B					
7限			アメリカ政治外交研究B		課題研究科目 「グローバル文化」	

※時間割の科目名は当時のものです。

# 大学院説明会

## 日時

詳細は、HPでお知らせいたします。

例年は第1回目について6月中旬、第2回目について10月中旬にアップします。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/index.html>

※ オンラインで開催予定。例年は7月上旬(第1回)と11月上旬(第2回)。  
臨床心理コースのみ4月にも開催予定。

## 内容

- 人間文化研究科及び研究分野の紹介：人間文化研究科の概要、コースの紹介
- 入学試験の説明：過去の入試実施状況の説明
- コース代表の教員との相談

※ 特定の教員に面談を希望される方は、

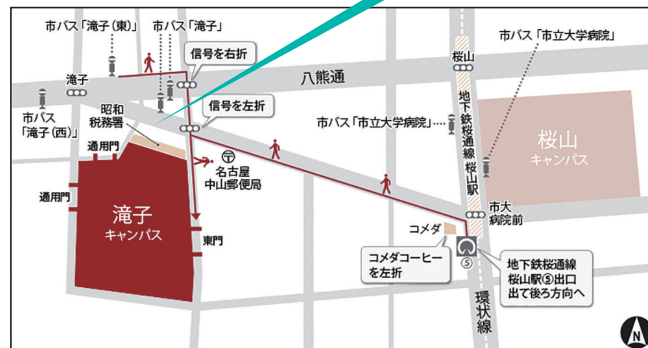
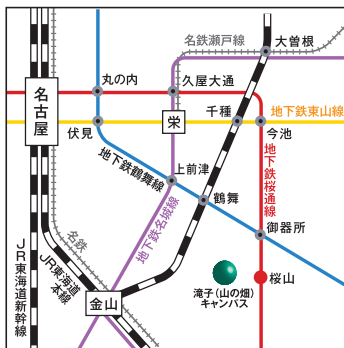
HP (コース紹介:<https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/grad/course/index.html>)  
に掲載の担当教員のメールに、個別に連絡をお取り願います(臨床心理コースを除く)。

## 大学院人間文化研究科の場所

名古屋市立大学  
滝子(山の畑)キャンパス

〒467-8501  
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地

- 地下鉄桜通線「桜山」下車  
5番出口より西へ徒歩約12分
- 市バス「滝子」下車 南へ徒歩約5分



お問い合わせ先

Eメールにてお願いいたします。

宛先 [office@hum.nagoya-cu.ac.jp](mailto:office@hum.nagoya-cu.ac.jp)